ONKYO

インテグレーテッドアンプ

A-905FX

取扱説明書

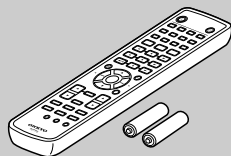
お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■さまざまな組み合わせが可能な単品設計
■オンキヨー独自開発のデジタルアンプ技術、「VL Digital（デジタル）」を搭載したステレオデジタルアンプ
■ 他のプリアンプと接続し、パワーアンプとしても使えるMAIN（メイン） IN（イン）機能
■ 重低音、低音、高音を調整できるトーンコントロール
■ オンキヨー製他機器も操作可能なシステムリモコン付属
■ バナナプラグ対応大型スピーカー端子装備

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

●リモコン(RC-614S) ...... (1)
●乾電池(単三形、R6) .... (2)
●取扱説明書 .... （本書1）
●保証書 .... （1）
●オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内 ...... （1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

接続をする

音楽を鑑賞する

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れる前に音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

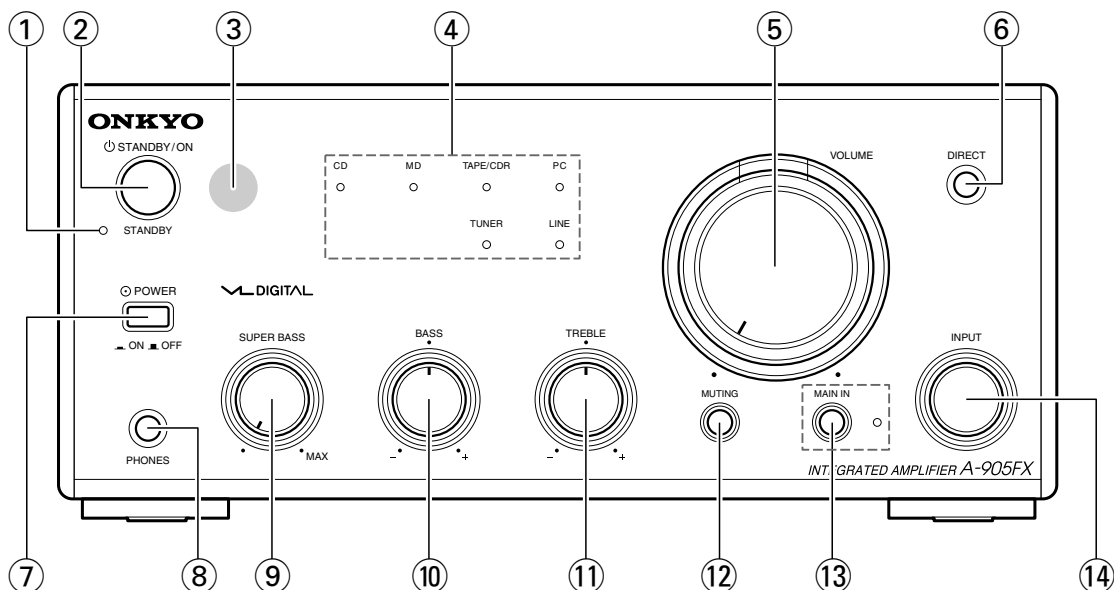
●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　〕内のページに主な説明があります。

① STANDBYインジケーター〔18〕
スタンバイ状態のときに赤く点灯します。

② STANDBY/ONボタン〔18〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

③ リモコン受光部〔11〕
リモコンからの信号を受信します。

④ INPUTインジケーター〔19〕
選ばれている機器のインジケーターが点灯します。
PCインジケーターは、後面パネルのPROCESSOR/PC切換スイッチの位置によって色が変わります。
スイッチについては、次ページをご覧ください。

緑：スイッチが「PC」側
オレンジ：スイッチが「PROCESSOR」側
消灯：スイッチが「PROCESSOR」側で、ダイレクト機能が「オン」になっている

⑤ VOLUMEつまみ〔19〕
音量を調整します。

⑥ DIRECTボタンとインジケーター〔20〕
音質調整の効果を使わず、ピュアな音で再生します。
ダイレクト機能を使っているときは、インジケーターが点灯します。

⑦ POWERスイッチ〔18〕
本機の主電源を入/切します。
主電源が入るとSTANDBYインジケーターが点灯します。

⑧ PHONES端子〔19〕
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑨ SUPER BASSつまみ〔20〕
重低音の音量を調節します。

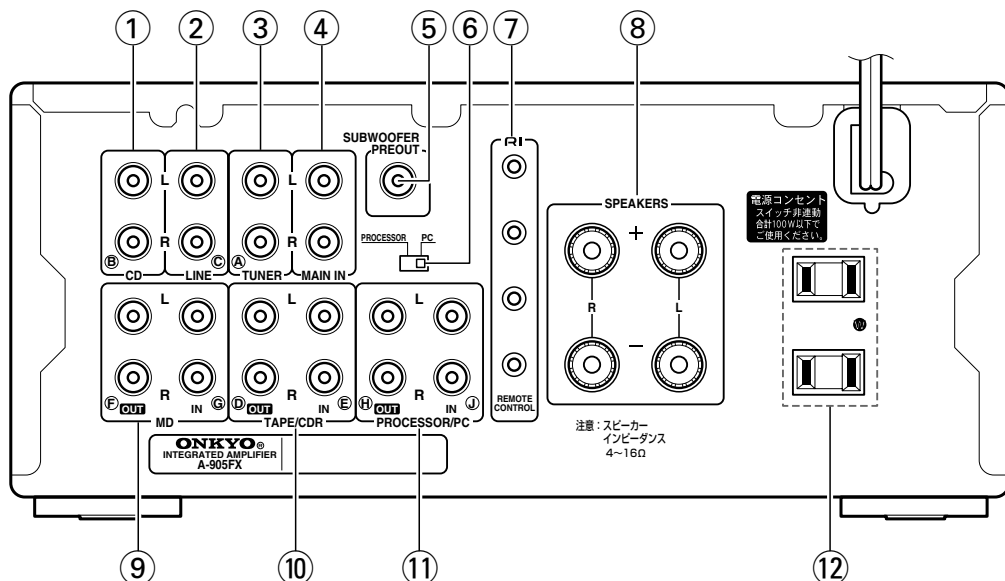
⑩ BASSつまみ〔20〕
低音の音量を調節します。

⑪ TREBLEつまみ〔20〕
高音の音量を調節します。

⑫ MUTINGボタン〔19〕
一時的に音量を小さくします。
ミューティング中は、ボリュームインジケーターが点滅します。

⑬ MAIN INボタンとインジケーター〔21〕
プリアンプを接続し、本機をパワーアンプとして使用するときに使います。3秒以上押してインジケーターが点灯すると、MAIN IN機能が働きます。

⑭ INPUTつまみ〔19〕
再生する機器を選びます。

後面パネル

① **CD端子**
オーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの音声出力端子と接続します。

② **LINE（ライン）端子**
オーディオ用ピンコードを使って、テレビやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーなど再生機器の音声出力端子と接続します。

③ **TUNER（チューナー）端子**
オーディオ用ピンコードを使って、チューナーを接続します。

④ **MAIN IN（メイン イン）端子**
本機をパワーアンプとして使用する場合、この端子にプリアンプを接続します。

ご注意

音量調節機能のない、CDプレーヤーなどは接続しないでください。最大音量で動作し、故障する可能性があります。

⑤ **SUBWOOFER PREOUT（サブウーファー プリアウト）端子**
アンプ内蔵サブウーファーを接続する端子です。

⑥ **PROCESSOR（プロセッサー）/PC切換スイッチ**
PROCESSOR/PC端子に接続した機器によって切り換えます。
グラフィックイコライザーを接続した場合は、「PROCESSOR」側にしておきます。その他の場合は「PC」側にしておきます。電源コードを接続する前に切り換えてください。

⑦ **RI端子**
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑧ **SPEAKERS（スピーカー）端子**
スピーカーを接続する端子です。

⑨ **MD端子**
オーディオ用ピンコードを使って、MDレコーダーなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑩ **TAPE（テープ）/CDR端子**
オーディオ用ピンコードを使って、テープデッキやCDレコーダーなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑪ **PROCESSOR（プロセッサー）/PC端子**
オーディオ用ピンコードを使ってグラフィックイコライザー、PC用オーディオプロセッサーや録音機器などを接続します。

⑫ **電源コンセント**
本機に接続する機器の電源プラグを接続します。

接続ついては、12〜17ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-614S）

〔　〕内のページにボタンの主な説明があります。

ONボタン〔18〕
本機の電源を入れます。

数字ボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの選曲をします。
10/0ボタン：10または0を選びます。
＞10ボタン：2桁以上の曲を選びます。
詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

FM/AMボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、FMまたはAMを選べます。

◀◀/▶▶ボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの早戻し/早送りをします。機種によってチューナーの場合は、周波数を選びます。

VOLUME ▲/▼ ボタン：
音量を調整します。
|◀◀/▶▶|(PRESET◀/ ▶)ボタン：
オンキヨー製CDやMD、CDRの前後の曲を選べます。押すたびに前または後に曲番がスキップします。
テープデッキは巻き戻し、早送りをします。
ラジオの選局にも使用します。
MUTINGボタン：
音量を一時的に小さくします。

TIMEボタン、ENTERボタン、▲/▼ ボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、時刻やタイマー設定に使用します。

MEMORYボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの再生する曲順を記憶させます。

RANDOMボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRを順不同に再生します。

REPEATボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRをくり返し再生します。

EQ EFECTボタン
オンキヨー製グラフィックイコライザーのスタンバイ/オンを切り換えます。

STANDBYボタン〔18〕
本機をスタンバイ状態にします。

GROUPボタン
オンキヨー製MDのグループを選択するときに、使用します。

CLEARボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRで記憶した曲を取り消します。

オンキヨー製CD操作ボタン
❚❚ ：再生を一時停止します。
■ ：再生を停止します。
▶ ：再生を始めます。

オンキヨー製MD操作ボタン
❚❚ ：再生を一時停止します。
■ ：再生を停止します。
▶ ：再生を始めます。

オンキヨー製TAPE/CDR操作ボタン
(ダブルカセットデッキの場合は、デッキBのみ操作することができます。)
◀/❚❚ ：カセットテープの裏面再生または、CDRの一時停止をします。
■ ：再生を停止します。
▶ ：再生を始めます。

SLEEPボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、スリープタイマーを設定します。

INPUT ▲/▼ ボタン〔19〕
本機で聞くソースを選びます。

DISPLAYボタン
オンキヨー製品のCDやMD、CDRの表示部の内容を切り換えます。

SCROLLボタン
オンキヨー製MDまたはCDRの文字を移動表示します。

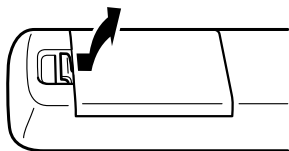
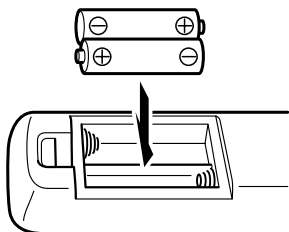
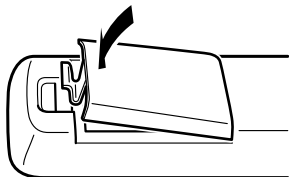
CLOCK CALLボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、現在時刻を表示します。

EQ MODEボタン
オンキヨー製グラフィックイコライザーのエフェクトモードを切り換えます。

P MODEボタン
オンキヨー製MDまたはCDRの再生モードを選びます。

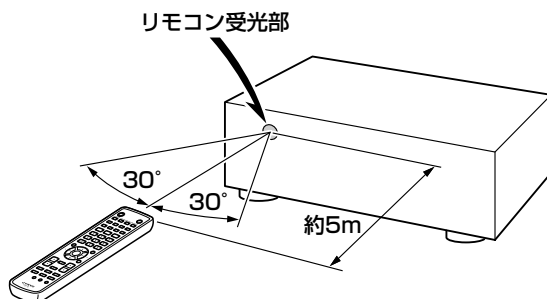
リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向に持ち上げてはずす

2. 中の極性表示にしたがって付属の乾電池2個をプラス⊕とマイナス⊖を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンは本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

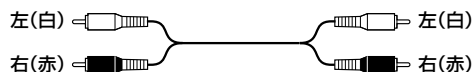
- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

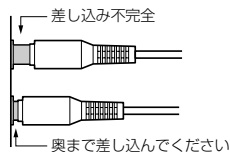
接続をする

機器を接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- スピーカーコードや電源コードをチューナーのアンテナに近づけると、影響を与える場合がありますので、できるだけ離してください。

システム機能について

INTEC205シリーズの組み合わせでRIケーブル、オーディオ用ピンコードを接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。INTEC205シリーズのCDプレーヤー、CDレコーダー、MDレコーダー、カセットテープデッキ、チューナーと接続する場合

システム接続のしかた
（INTEC205 シリーズの接続）

本取扱説明書14ページをご覧ください。

オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

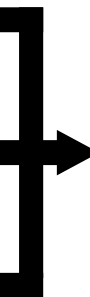
詳しくは本取扱説明書10ページをご覧ください。

タイマー操作
チューナーでタイマー時間を設定し、タイマー操作や、タイマー録音ができます。

詳しくはチューナーの取扱説明書をご覧ください。

CDダビング
CDプレーヤーやCDレコーダー、MDレコーダー、カセットテープデッキの組み合わせで便利なCDダビングがワンタッチで行えます。

トラック指定CDダビング
再生トラックを指定してCDプレーヤーからMDレコーダーやCDレコーダーへの録音がワンタッチで行えます。

シンクロ録音
MDレコーダーやCDレコーダーまたはカセットテープデッキを録音待機状態にしておけばCDプレーヤーの再生操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくはCDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、カセットテープデッキの取扱説明書をご覧ください。

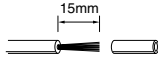
- 接続が正しくないと各機能は働きません。14〜17ページを参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- オンキヨー製UE-205とは、組み合わせできません。
- 本機のMAIN（メイン） IN（イン）機能を使用しているときは、これらのシステム機能は動作しません。
- 一部、旧INTEC205シリーズ製品との組み合わせで動作しない機能があります。新旧製品の連動動作の対応/非対応については、カスタマーセンターにお問い合わせください。

スピーカーを接続する

インピーダンスが4～16Ω（オーム）のスピーカーをご使用ください。
4Ω未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。

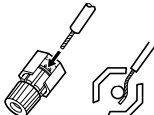
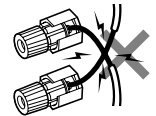
スピーカーコードの接続

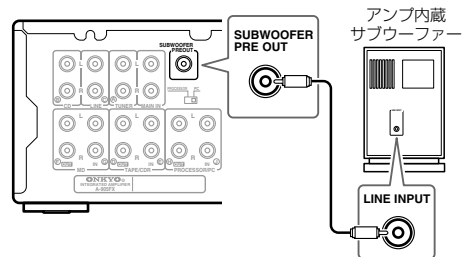
本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子、本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子を接続します。

① スピーカーコードの被覆を15mmカットする
② しん線の先端をしっかりとよじる
③ ねじをゆるめる
④ しん線を差し込む
⑤ ねじを締め付ける

バナナプラグの場合

バナナプラグタイプのスピーカーコードを接続することもできます。その場合は、スピーカー端子のねじを締めてからプラグを差し込んでください。

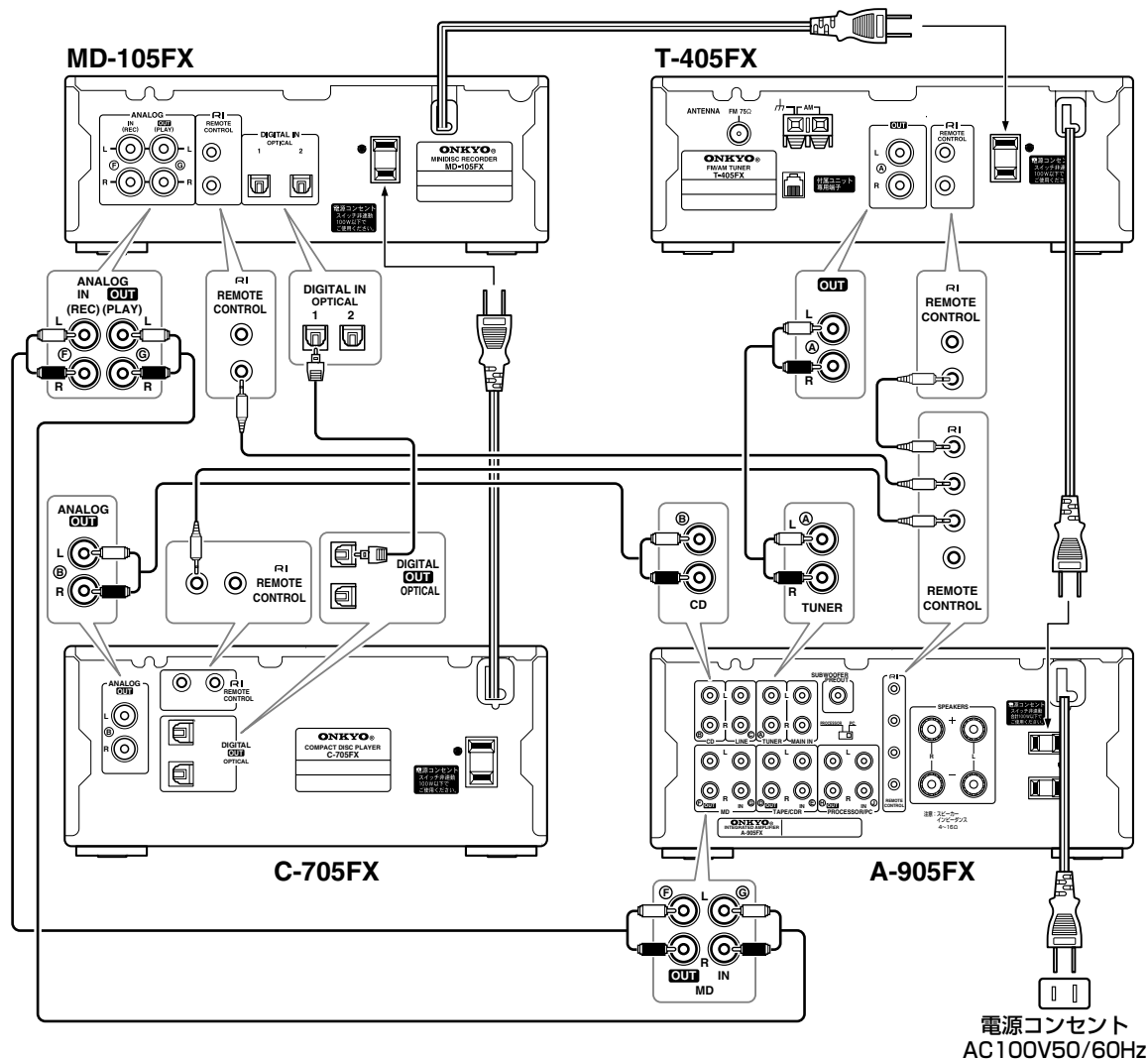
ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを
SUBWOOFER PREOUT端子に接続します。

！ヒント

再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

接続をする

INTEC205シリーズのC-705FX、T-405FX、MD-105FXと接続する

RIケーブルの接続

- 本機にはRIケーブルは付属していません。INTEC205シリーズの各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。
- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つ以上ある場合、それぞれの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

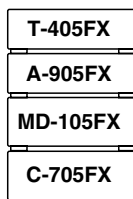
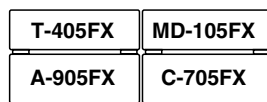
！ヒント

- 各機器の設置のしかたについては、右図のような方法があります。
- 各接続については、次ページからの説明をご覧ください。

（縦置の例）

T-405FX
A-905FX
MD-105FX
C-705FX

（横置の例－前から見た場合－）

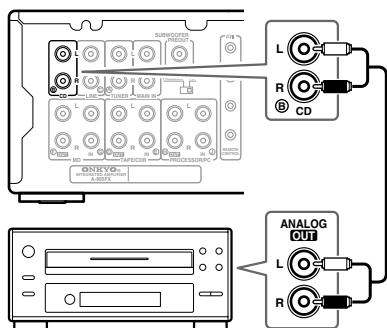
T-405FX	MD-105FX
A-905FX	C-705FX

オーディオ機器を接続する

CDプレーヤーを接続する

■オンキヨー製CDプレーヤーの場合

本機のCD端子Ⓑと CDプレーヤーのANALOG OUT端子Ⓑを接続します。

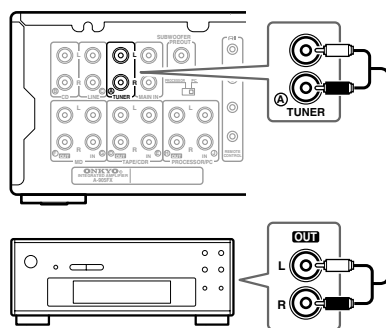
■その他のCDプレーヤーと接続する場合

本機のCD端子ⒷとCDプレーヤーのアナログ音声出力端子を接続します。

チューナーを接続する

■オンキヨー製チューナーの場合

本機のTUNER端子Ⓐとチューナーの OUT端子Ⓐを接続します。

■その他のチューナーと接続する場合

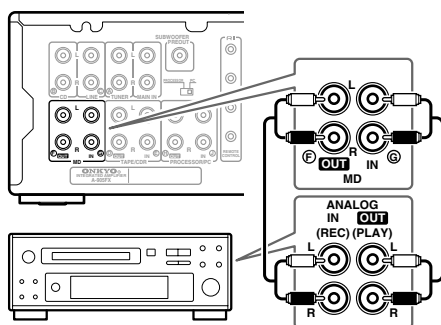
本機のTUNER端子Ⓐとチューナーのアナログ音声出力端子を接続します。

MDレコーダーを接続する

■オンキヨー製MDレコーダーの場合

本機のMD OUT端子ⒻとMDレコーダーのANALOG IN端子Ⓕを接続します。

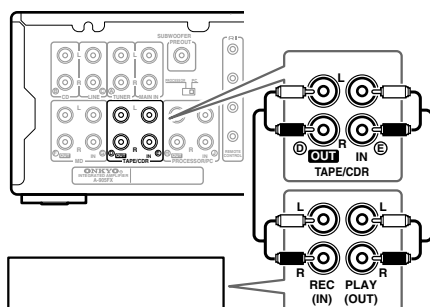
本機のMD IN端子ⒼとMDレコーダーのANALOG OUT端子Ⓖを接続します。

■その他のMDレコーダーと接続する場合

本機のMD OUT端子ⒻとMDレコーダーのアナログ音声入力端子を接続します。
本機のMD IN端子ⒼとMDレコーダーのアナログ音声出力端子を接続します。

テープデッキ/CDレコーダーを接続する

■オンキヨー製テープデッキの場合

本機のTAPE/CDR OUT端子Ⓓとテープデッキの IN端子Ⓓを接続します。

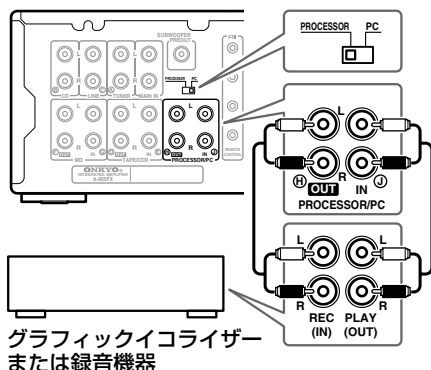
本機のTAPE/CDR IN端子Ⓔとテープデッキの OUT端子Ⓔを接続します。

テープデッキまたは
CDレコーダー

■CDレコーダーやその他のテープデッキと接続する場合

本機のTAPE/CDR OUT端子ⒹとテープデッキまたはCDレコーダーのアナログ音声入力端子を接続します。

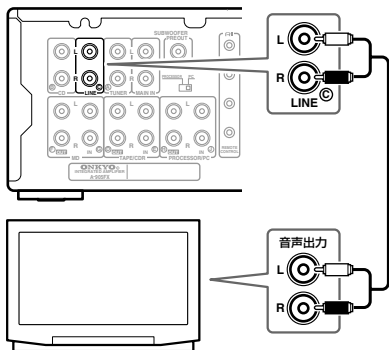
本機のTAPE/CDR IN端子ⒺとテープデッキまたはCDレコーダーのアナログ音声出力端子を接続します。

グラフィックイコライザーや録音機器を接続する

本機のPROCESSOR/PC OUT端子Ⓗと、グラフィックイコライザーまたは録音機器の音声入力端子を接続します。
本機のPROCESSOR/PC IN端子Ⓙと、グラフィックイコライザーまたは録音機器の音声出力端子を接続します。

ご注意

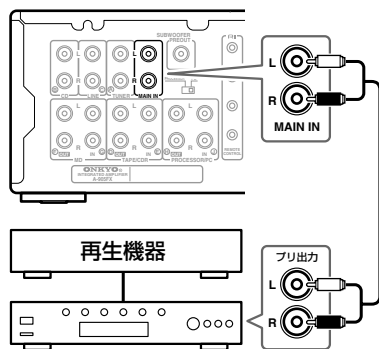
この端子にグラフィックイコライザーを接続した場合は、電源コードを接続する前にPROCESSOR/PC切換スイッチを「PROCESSOR」側にしてください。その他の機器の場合は「PC」側にしてください。その他の機器を接続していて「PROCESSOR」側になっていると、音が出ません。

テレビなどの再生機器を接続する

本機のLINE端子Ⓒと接続する機器のアナログ音声出力端子を接続します。

！ヒント

テレビに音声出力端子がない場合は、ビデオデッキの音声出力端子を本機と接続すると、ビデオデッキに内蔵されたテレビチューナーでテレビの音をお楽しみいただけます。

プリアンプを接続する

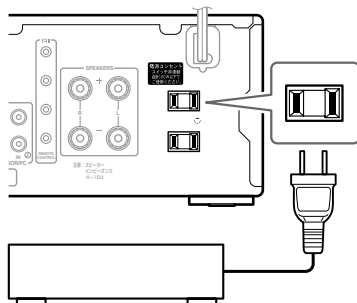
プリアンプと接続すると本機をパワーアンプとして使用することができます。本機のMAIN IN端子とプリアンプのプリ出力端子を接続します。スピーカーは本機に、再生機器はプリアンプに接続します。

ご注意

- 音質調節機能のない機器は接続しないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。
- 本機をパワーアンプとして使用する場合は、前面パネルのMAIN INボタンを3秒以上上押して、インジケーターを点灯させる必要があります。（☞21ページ）
- 本機をパワーアンプとして使用しているときは、以下の操作や機能は働きません。可能な機能は、接続したプリアンプ側で操作してください。
  - 音量調整、入力切り換え、ミューティング機能、リモコン操作、RI連動動作、TONE/DIRECT機能、録音、サブウーファーからの出力

他機の電源プラグを本機につなぐ

本機後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを接続することができます。
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードや電源プラグに目印がある場合は、目印側を本機の電源コンセントのⓌ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合は、どちらを接続してもかまいません。

ご注意

本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。

RI ケーブルを接続する

RI端子付オンキヨー製品と組み合わせた場合、システム機能を使うことができます。（本機にRIケーブルは付属していません。INTEC205シリーズの各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

- 操作は本機に付属しているリモコンを使用します。本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

（例）

- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つ以上ある場合、それぞれの端子の働きは同じです。いずれにでもつなげます。
- RI 端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- オンキヨー製のテープデッキとCDレコーダーの両方を接続する場合、システム機能が働くのはTAPE/CDR端子に接続した機器のみです。TAPE/CDR端子に接続していない方のテープデッキまたはCDレコーダーのRIケーブルは接続しないでください。
- MDレコーダーを2台など、同じカテゴリーのオンキヨー製品を複数接続する場合、システム機能が働くのは1台だけです。1台だけRIケーブルを接続し、それ以外はRIケーブルを接続しないでください。
- 本機はアンプ製品ですので、他のアンプのRI端子と接続しても連動しません。

電源コードを接続する

電源プラグを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。
また、PROCESSOR/PC端子にグラフィックイコライザーを接続している場合は、後面パネルにあるPROCESSOR/PC切換スイッチが「PROCESSOR」側になっていることを確認してください。その他の場合は、「PC」側にしておきます。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

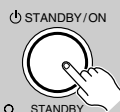
音楽を鑑賞する

電源を入れる

本体のPOWERスイッチを押す

STANDBYインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

！ヒント

お買い上げ時には、本機のPOWERスイッチは「ON」の状態になっていますので、電源プラグをコンセントに差し込むとスタンバイ状態となります。

本体

または

リモコン

本機のSTANDBY/ONボタン、またはリモコンのONボタンを押す

STANDBYインジケーターが消灯します。

ご注意

電気回路が安定するまで約5秒かかります。その間は音声を出力しません。

スタンバイ状態に戻すには

本機のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。

システム全体の電源を入れるには

リモコンのONボタンをもう一度押します。RI接続したすべてのオンキヨー機器も電源が入ります。

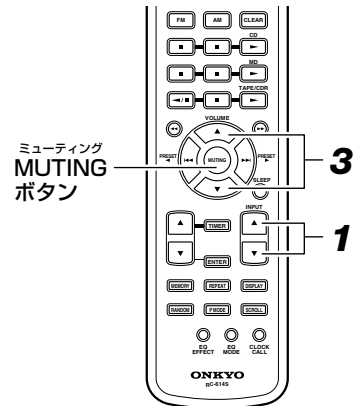
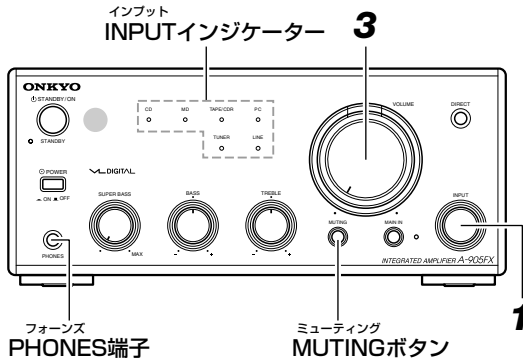
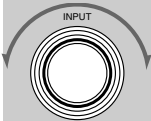
一度にシステム全体の電源が入るようにするには

電源が入った状態でリモコンのONボタンを16秒以上押します。

スタンバイ状態になり、次からは本体のSTANDBY/ONボタンやリモコンのONボタンを一度押すと、システム全体の電源が入ります。

- 元に戻すには、リセットをします。（☞23ページ）

接続した機器を再生する

1

INPUT

INPUTつまみを回して、再生する機器を選ぶ

CD ：CD端子に接続した機器
MD ：MD端子に接続した機器
TAPE/CDR＊1：TAPE/CDR端子に接続した機器
PC＊2：PROCESSOR/PC端子に接続した機器
TUNER ：TUNER端子に接続した機器
LINE ：LINE端子に接続した機器

リモコンでは、INPUT▲/▼ボタンで選べます。

＊1 オンキヨー製CDレコーダーを接続した場合は、CDレコーダーを判別するため、初めて選んだときのみインジケーターが約8秒間点滅します。
＊2 後面パネルのPROSESSOR/PC切換スイッチが「PROCESSOR」側になっているときは、選択できません。

2

選んだ機器の再生を始める

3

本体

または

VOLUME

MUTING

リモコン

音量を調節する

本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調節します。

- つまみは右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。

一時的に音量を小さくする

リモコンまたは本体のMUTINGボタンを押す

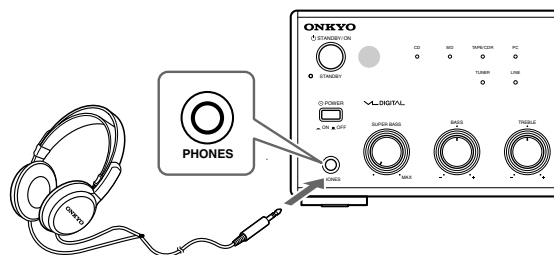
ボリュームインジケーターが点滅します。

解除するには

もう一度MUTINGボタンを押します。

- リモコンで音量を変えたり、本体のSTANDBYボタンを押した場合にも解除されます。

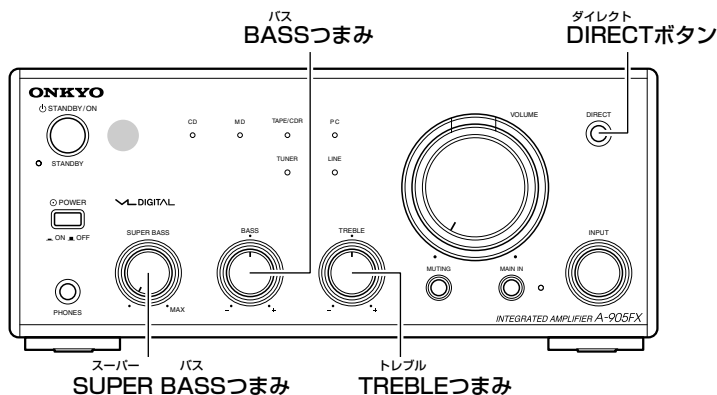
ご注意

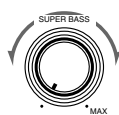
MAIN IN機能を使って、本機をパワーアンプとして使用しているときは、ミューティング機能は働きません。

ヘッドホンで聞く

PHONES端子にヘッドホンのステレオミニプラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- MAIN IN機能を使用しているときは、ヘッドホンで聞くことはできません。

音質を調整する

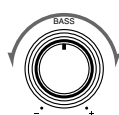
- MAIN IN機能を使っているときは、音質調整の効果はありません。また、DIRECT機能は働きません。
- 後面パネルのPROCESSOR/PC切換スイッチが「PROCESSOR」側になっているときは、グラフィックイコライザーの音響効果を優先するため、本機での音質調整の効果はありません。

重低音を調整する

DIRECT機能が「オン」のときは、効果がありません。

SUPER BASSつまみを回す

SUPER BASSつまみを回して調整します。

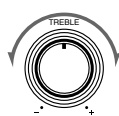
右に回すと重低音が強調されます。通常は一番左の位置に合わせておきます。

低音を調整する

DIRECT機能が「オン」のときは、効果がありません。

BASSつまみを回す

BASSつまみを回して調整します。

右に回すと低音が強調されます。通常は中央の位置に合わせておきます。

高音を調整する

DIRECT機能が「オン」のときは、効果がありません。

TREBLEつまみを回す

TREBLEつまみを回して調整します。

右に回すと高音が強調されます。通常は中央の位置に合わせておきます。

DIRECT機能を使う

DIRECT機能を使って、音質調整の効果をかけずにピュアな音で聞くことができます。

DIRECTボタンを押す

押すたびに「オン」と「オフ」が切り換わります。

オン：音質調整は働きません。
ピュアな音で聞くことができます。
インジケーターが点灯します。

オフ：音質調整の効果が働きます。
インジケーターが消灯します。

グラフィックイコライザーを使う

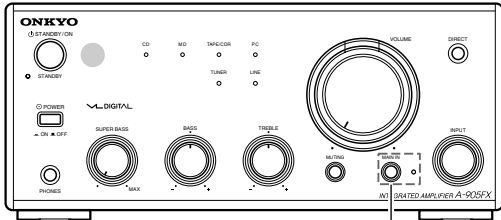
PROCESSOR/PC端子に接続し、電源コードを接続する前にPROCESSOR/PC切換スイッチを「PROCESSOR」側にします。

電源を入れたときにDIRECT機能が「オン」になっている場合は、DIRECTボタンを押して「オフ」にしてください。

PCインジケーターがオレンジ色に点灯し、本機に接続したどの機器を再生してもイコライザーを経由するので、グラフィックイコライザーの音響効果が楽しめます。

MAIN IN機能を使っているとき、DIRECT機能が「オン」のときは、グラフィックイコライザーの効果はありません。

MAIN IN機能を使う（本機をパワーアンプとして使う）

プリアンプを接続し、本機をパワーアンプとして使用することができます。

MAIN INボタンとインジケーター

MAIN INボタンを3秒以上押して、インジケーターの色を変える

緑：プリアンプを接続した場合、本機をパワーアンプとして使用することができます。プリアンプの入力端子に接続した機器の音声を出力します。

消灯：MAIN IN機能を使用しません。

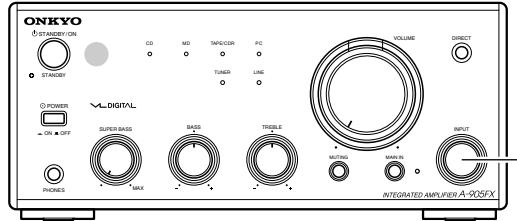
！ヒント

電源を入れるときは、プリアンプの電源を先に入れ、次に本機の電源を入れてください。

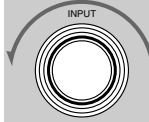
ご注意

- MAIN IN機能を使用しているとき、本機はパワーアンプとして働きます。本機のVOLUMEつまみやINPUTつまみを回しても効果はありません。MAIN IN機能を解除したとき、INPUTつまみで選んだ機器の音が出ますので、特にVOLUMEつまみの位置にご注意ください。
- MAIN IN機能を使用しているとき、本機はパワーアンプとして働きますので、以下の操作や機能は働きません。可能な機能は、接続したプリアンプ側で操作してください。
  - 音量調整、入力切り換え、ミューティング機能、リモコン操作、RI連動動作、DIRECT機能、録音、サブウーファーからの出力
- MAIN IN端子に音量調節機能のない、CDプレーヤーなどを接続して、MAIN IN機能を使わないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。

録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- 音質調整効果は録音されません。また、グラフィックイコライザーの効果も録音されません。
- MAIN IN機能を使用しているときは、録音できません。

1 録音する機器（再生側）を選ぶ

INPUTつまみを回して、録音する機器(再生側)を選びます。

2 録音する機器（録音側）の準備をする

録音する機器を録音待機状態にします。

- 録音レベルの調整は、録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音を始める

手順**1** で選んだ再生機器を再生します。

ご注意

録音中に入力を切り換えないでください。切り換えた入力の音が録音されます。

困ったときは

まず下記の内容を確認してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、10秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。
- 初期設定では、本体のSTANDBY/ONボタンを押してもシステム全体の電源は入りません。
  リモコンのONボタンをもう一度押すか、18ページで設定してください。

電源が切れ、STANDBYインジケーターが赤色に点滅している

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音　声

音声が出力されない

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードのしん線部が本機のスピーカー端子の金属部に確実に固定されているか確認してください。**〔13ページ〕**
- 入力が正しく選択されているか確認してください。**〔19ページ〕**
- MUTING機能が働いているときは、解除してください。**〔19ページ〕**
- レコードプレーヤーの場合、フォノイコライザーが内蔵か、お確かめください。MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり、損傷していないか確認してください。
- PROCESSOR/PC端子に何も接続されていないときは、切換スイッチを「PC」側にしてください。**〔9ページ〕**
- 本機をパワーアンプとして使用しているとき（MAIN INインジケーターが点灯しているとき）は、プリアンプに接続した機器の音声が出力されます。本機に接続した機器の音声を出力するには、MAIN IN機能をOFFにしてください。**〔21ページ〕**

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが他機器の影響を受けている可能性があります。接続コードの位置を変えてみてください。

音質調整の効果がない

- DIRECTインジケーターが点灯しているときはダイレクトモードとなり、音質調整の効果は出ません。もう一度ボタンを押して解除してください。**〔20ページ〕**
- 後面パネルのPROCESSOR/PC切換スイッチがPROCESSOR側になっていると、本機の音質調整は働きません。**〔20ページ〕**

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（+/−）が正しく入っているか確認してください。**〔11ページ〕**
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか､リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。**〔11ページ〕**
- 本体のリモコン受光部に強い光(インバーター蛍光灯や直射日光)が当たっていると、リモコン操作ができない場合があります。**〔11ページ〕**
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると、正常に機能しない場合があります。**〔11ページ〕**
- MAIN IN機能が働いているときは、リモコン操作はできません。**〔21ページ〕**

録　音

録音ができない

- MAIN IN端子に接続した機器は録音できません。また、MAIN IN機能が働いているときは録音できません。
- 本機にオンキヨー製CDプレーヤーとDVDプレーヤーの両方を接続している場合、CDダビングに使わない機器は電源をスタンバイ状態にしてください。

その他

他機の操作ができない

- オンキヨー製品とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルの接続だけでは連動しません。）
- MAIN IN機能が働いているときは、RI連動動作はしません。**〔21ページ〕**

音量調整ができない

- MAIN IN機能が働いているときは音量調整はできません。接続したプリアンプ側で操作してください。

ミューティング機能が働かない

- MAIN IN機能が働いているときはミューティング機能は働きません。接続したプリアンプ側で操作してください。

主な仕様

電源・電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	95W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	205(幅)×91(高さ)×299(奥行)mm
質量	4kg
定格出力	60W+60W (4Ω 1kHz、全高調波歪率0.5%以下、2ch駆動時) 40W+40W (8Ω 1kHz、全高調波歪率0.5%以下、2ch駆動時)
実用最大出力	80W+80W(4Ω JEITA)
全高調波歪率	0.08%(1kHz、1W出力時)
ダンピングファクター	35(フロント、8Ω)
入力感度/インピーダンス	200mV/50kΩ(LINE)
出力電圧/インピーダンス	200mV/2.2kΩ(REC OUT)
周波数特性	10Hz~60kHz/+1dB −3dB
トーンコントロール	±8dB、100Hz(BASS) ±8dB、10kHz(TREBLE) +10dB、80Hz(SUPER BASS)
最大変化量	
SN比	100dB(CD、IHF-A)
スピーカー適応インピーダンス	4Ω~16Ω
音声入力(アナログ)	CD、LINE、TUNER、MAIN IN、MD、TAPE/CDR、PROCESSOR/PC
音声出力(アナログ)	MD、TAPE/CDR、PROCESSOR/PC
サブウーファープリ	1
スピーカー	1(L/R)
ヘッドホン	1

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約10秒以上放置してから電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害(CDレンタル料等)については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

リセットするには
電源を入れた状態でMAIN INボタンを押しながSTANDBY/ONボタンを押してください。
INPUTインジケーターがすべて点灯してから、スタンバイ状態になります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 A-905FX
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。